

[成果情報名]水田での単一品種ずらし播きによる加工・業務用キャベツの継続安定生産技術

[要約]在ほ性の高い寒玉系キャベツの晩生品種「冬のぼり」を7月中旬～8月上旬に、5日程度ずらしながら播種し、株間 35 cmで定植すると、12月中旬～4月中旬に平均球重 2 kg 以上の大玉キャベツを継続収穫することができ、定時定量出荷が可能となる。

[キーワード]在ほ性、寒玉系キャベツ、晩生品種、冬のぼり、ずらし播き

[担当]栽培研究部、野菜担当

[代表連絡先]電話 0748-46-3082

[研究所名]滋賀県農業技術振興センター

[分類]普及成果情報

[背景・ねらい]

水田率の高い滋賀県では、水田でキャベツを栽培する機会が多く、既存のキャベツ産地を中心に、県内全域で秋冬キャベツの加工・業務用栽培が拡大している。一般に、加工・業務用キャベツは、数品種をずらし播きして継続出荷に対応しているが、天候の影響により、品種によっては収穫時期が重なり、結果、契約数量に満たない品薄時期が発生する場合がある。また、それぞれの品種特性を充分把握して栽培に取り組まなければ失敗することも心配される。そこで、在ほ性の高い寒玉系晩生品種「冬のぼり」をずらして播種し、平均球重 2 kg 以上の大玉キャベツを圃場に確保しながら、継続的に収穫できる栽培技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. 在ほ性の高い寒玉系晩生品種「冬のぼり」を用いる。
2. 平均球重 2 kg 以上の大玉キャベツは、7月中・下旬播種（7月 15 日～7月 30 日）では 12月中旬から、8月 5 日播種では 2月中旬から、8月 10 日播種では 3月中旬から収穫でき、定時定量出荷が可能となる（図 2、表 1）。
3. 平均球重は、収穫時期が遅くなるほど重くなる（図 2、表 2）。
4. 単収および適正球重（2～2.5kg）を考慮すると、株間は 35 cm程度が望ましい（図 1）。

[普及のための参考情報]

1. 普及対象：加工・業務用キャベツ栽培者および栽培予定者
2. 普及予定地域：年間平均気温 14.5℃（1～3月平均気温 4.6℃）、年間降水量 1520mm の気象条件に準じた地域の水田
3. その他：
 - 1) 滋賀県近江八幡市安土町の水田（中粗粒グライ土：SiL）における試験結果である。
 - 2) 在ほ期間が長くなり過ぎると、外葉が傷み、外観品質が低下するので、球重が確保でき次第、収穫する。
 - 3) 種苗会社の資料によると、「冬のぼり」の一般的な作型（平暖地の場合）は、8月上旬～9月上旬に播種し、2月上旬～5月上旬に収穫としている。
 - 4) 試験期間中の最低気温は、2010 年は -3.0℃、2011 年は -4.7℃、2012 年は -8.5℃であった。

[具体的データ]

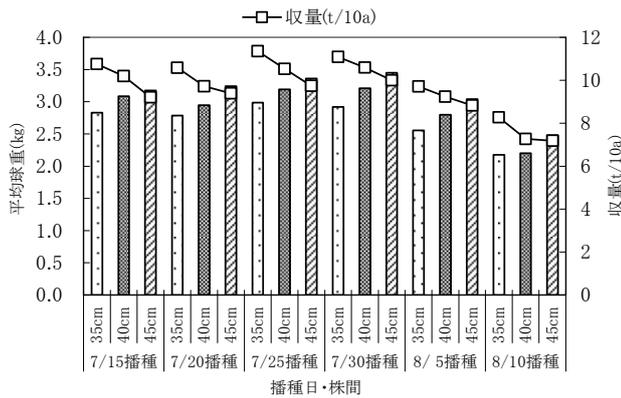


図1 調査期間(12月中旬～4月中旬)を通じた平均球重と予測収量(2010～2011年)

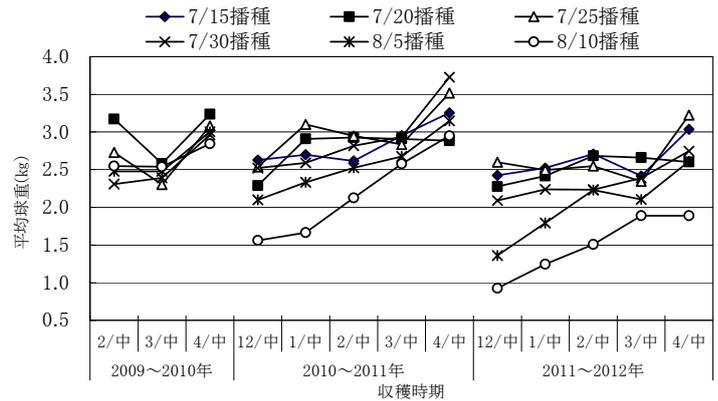


図2 時期ごとの平均球重(2009～2010年、2010～2011年、2011～2012年)

- 注 1) 播 種 : 7/15 播種 ; 2010・2011/7/15、7/20 播種 ; 2009/7/21、2010・2011/7/20、7/25 播種 ; 2009/7/26、2010・2011/7/25、7/30 播種 ; 2009・2011/7/31、2010/7/30、8/ 5 播種 ; 2009・2010・2011/8/5、8/10 播種 ; 2009・2010・2011/8/10
128穴セルトレイでハウス育苗(育苗日数:16～28日)
- 2) 定 植 : 7/15 播種 ; 2010/8/5、2011/8/4、7/20 播種 ; 2009/8/18、2010/8/10、2011/8/9、7/25 播種 ; 2009/8/18、2010/8/11、2011/8/10、7/30 播種 ; 2009/8/25、2010・2011/8/18、8/ 5 播種 ; 2009/8/25、2010・2011/8/24、8/10 播種 ; 2009・2010/8/31、2011/8/30
- 3) 栽植密度 : 畝間 150×株間 35, 40, 45 (cm) × 2 条 (3, 800、3, 300、2, 900 株/10a) (図 1)
畝間 150×株間 35 (cm) × 2 条 (3, 800 株/10a) (図 2)
- 4) 基 肥 : N:P₂O₅:K₂O=16.4:16.6:15.1 (kg/10a)、定植 8 日前までに施用
- 5) 追 肥 : N:P₂O₅:K₂O=5.3:3.3:4.6 (kg/10a)、定植 2 週間後、4 週間後に各施用
- 6) 収 穫 : 12/中 ; 2010/12/14、2011/12/13、1/中 ; 2011/1/11、2012/ 1 /10、2/中 ; 2010/2/19、2011/2/14、2012/2/10、3/中 ; 2010/3/15、2011/3/9、2012/3/12、4/中 ; 2010/4/12、2011/4/13、2012/4/10

表 1 「冬のぼり」作型表

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
	◎	★								
	◎	★								
	◎	★								

◎:播種 ★:定植 ■:収穫

表 2 収穫適否表

播種日	収穫期				
	12月	1月	2月	3月	4月
7/15	△	△	△	△	△
7/20	○	△	△	△	△
7/25	△	△	△	△	△
7/30	○	○	△	△	△
8/ 5	×	○	○	○	△
8/10	×	×	×	○	○

- :収穫最適
(2～2.5kg 2年間の平均球重)
- △:収穫適期
(> 2.5kg 2年間の平均球重)
- ×:収穫不適
(< 2kg 2年間の平均球重)

(福永泰也)

[その他]

研究課題名 : 加工業務用野菜の低コスト安定生産技術の確立
水田利用野菜省力安定生産技術の確立

予算区分 : 県単

研究期間 : 2008～2011年度

研究担当者 : 福永泰也、豊岡幸二、伊吹久美